第２章　各教科等における学習評価

１（１）　小学校　国語

単元（題材）における観点別学習状況の評価を実施するに当たり、まずは年間の指導と評価の計画を確認することが重要である。国語科においては、一つの指導事項を年間で複数回繰り返し取り上げて指導することが多い。それは国語科の指導内容が螺旋的・反復的に繰り返しながら能力の定着を図ることを基本としているからである。そのため、年間を見通して当該単元の指導目標や単元の評価規準を設定することが重要になる。

その上で、学習指導要領の目標や内容、「内容のまとまりごとの評価規準」の考え方等を踏まえ、以下のように指導と評価を進めることが考えられる。ここでは、

第３学年「書くこと」
「調べたことを説明する文章を書こう」（様々な食品になる一つの材料について調べ、説明する）

単元を例として、その評価例を示す。

①　単元（題材）の目標を作成する

年間指導計画に基づき、当該単元で取り上げる学習指導要領の指導事項を確認し、単元の目標を設定する。小学校国語科における単元の目標は、以下のように設定することができる。

「知識及び技能」及び「思考力・判断力・表現力等」の目標・・・基本的に扱う指導事項の文末を「～できる」として示す。
「学びに向かう力、人間性等」の目標・・・いずれの単元においても当該学年の「学年の目標」である「言葉がもつよさ～思いや考えを伝え合おうとする。」までを示す。

このことを踏まえて、本単元の「単元の目標」を以下のように設定することができる。

（１）比較や分類の仕方、辞書や事典の使い方を理解し使うことができる。〔知識及び技能〕⑵イ
（２）書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができる。〔思考力、判断力、表現力等〕Ｂ⑴イ
（３）間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えることができる。〔思考力、判断力、表現力等〕Ｂ⑴エ
（４）言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする「学びに向かう力、人間性等」

②　単元（題材）の評価規準を作成する

「知識・技能」の評価規準の設定の仕方
当該単元で育成を目指す資質・能力に該当する〔知識及び技能〕の指導事項の文末を「～している」として作成する。
「思考・判断・表現」の評価規準の設定の仕方
当該単元で育成を目指す資質・能力に該当する〔思考力、判断力、表現力等〕の指導事項の冒頭に、指導する一領域を「（領域名）において、」と明記し、文末を「～している」として作成する。
「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の設定の仕方
当該単元（や題材）で育成する資質・能力と言語活動に応じて作成する。
具体的には、①知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面と、②①の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面の双方を適切に評価するため、下記③、④に示したように、特に、粘り強さを発揮してほしい内容と、自らの学習の調整が必要となる具体的な言語活動を考えて授業を構想し、評価規準を設定することが大切である。このことを踏まえて、①から④の内容を全て含め、単元（や題材）の目標や学習内容

等に応じて、その組合せを工夫して作成する。なお、〈 〉内の言葉は、当該内容の学習状況を例示したものであり、これ以外も想定される。

① 粘り強さ〈積極的に、進んで、粘り強く等〉
② 自らの学習の調整〈学習の見通しをもって、学習課題に沿って、今までの学習を生かして等〉
③ 他の２観点において重点とする内容（特に、粘り強さを発揮してほしい内容）
④ 当該単元の具体的な言語活動（自らの学習の調整が必要となる具体的な言語活動）

このことを踏まえて、本単元の「単元の評価規準」を以下のように設定することができる。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ⅰ 比較や分類の仕方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。（⑵イ）	ⅰ 「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。（B⑴イ）◎ ⅱ 「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えている。（B⑴エ）	ⅰ ①進んで③内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、②学習課題に沿って④調べたことを説明する文章を書こうとしている。

※ 単元の指導では、重点とする指導事項（評価規準）を明らかにして指導に当たる。ここでは、◎を付けた評価の観点が、単元の重点指導事項となっている（単元によっては、複数ある場合もある）。

※ 「知識・技能」「思考・判断・表現」については、育成したい資質・能力に照らして、指導事項の一部を用いて作成することもある。ここであれば、「知識・技能」については、〔知識及び技能〕⑵イ「比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。」のうちの、本単元で取り扱う内容のみを取り出して作成している。

③ 指導と評価の計画を作成する

各時間の具体的な学習活動を構想し、単元のどの段階（時間）でどの評価規準に基づいて評価を記録するかを決定し、実際の学習活動を踏まえて評価方法を計画する。

時	主たる学習活動	評価規準（記録）	評価方法
1	○ 「食品になる一つの材料について調べ、説明する文章を書く」という本単元の学習の見通しをもつ。 ○ 自分が調べる食品の材料を決める。 ○ 図書館資料やインターネットで調べる。	本時は、B⑴アに基づいて学習状況を捉え指導と評価を行うが、単元の目標としていないことから本単元の評価の記録には含めない。	
2	○ 「調理や加工の仕方」「作られる食品」などの観点で調べた内容を整理し、分類する。	「知識・技能」ⅰ	ノート
3・4	○ 「はじめ」「中」「おわり」で文章の組立てを考える。 ○ 「中」の部分で説明する内容・例やその順序について検討する。 ○ 考えた組立てにそって、段落の書き方を考えて下書きをする。	「主体的に学習に取り組む態度」ⅰ 「思考・判断・表現」ⅰ	ワークシート
5	○ 下書きを読み返し、より分かりやすい表現にしたり、間違いを正したりして修正を朱で書き入れる。	「思考・判断・表現」ⅱ	校正入り下書き原稿
6	○ 修正した下書き原稿をもとに、清書する。	本時は、〔思考・判断・表現〕ⅰに基づいて学習状況を捉え指導を行うが、評価の記録は次時で総括して行う。	
7	○ 書いた文章を仲間同士で読み合い、文章の内容や書き方について感想やよいところを伝え合う。 ○ 仲間からの感想も踏まえて、今回の学習でどのように書く内容や書き方を工夫することができたかふり返り、学習のまとめを書く。	「思考・判断・表現」ⅰ	完成した作文 学習のまとめ

※　国語科の学習指導要領の各領域の指導事項は学習過程に沿って示されているが、領域の単元において毎回すべての指導事項について扱い、評価を記録する必要はない。当該単元の言語活動の特質に照らして、扱う指導事項を精選して位置づける。

※　ただし、当該単元で扱わなかった指導事項は、同一領域の他の単元において扱うようにし、年間を通して当該学年のすべての指導事項が扱われるよう指導・評価計画を立てる必要がある。

※　本手引き第１章で示したように、「単元の評価として記録に残す」場面を精選して計画を立てる。もちろん記録に残さない単位時間においても、学習状況を捉え指導に生かすことや、児童が自らの学びをふり返って次の学びに生かすための指導と評価は行う。

④　実際の指導及び評価

評価計画に基づいて単元の指導・評価を行うに当たっては、各時間の実際の学習活動を踏まえて、「Ｂと判断する状況の例」及び「Ｃと判断する状況への手立て」を想定する必要がある。

ここでは、本単元の評価規準について、各観点一つずつその例を示す。

単元の評価規準	評価方法	Ｂと判断する状況の例	Ｃと判断する状況への手立て
「主体的に学習に取り組む態度」ｉ	ワークシート	・説明する内容・例やその順序について、複数の案を比較した上で決め、下書きを完成させている。	・仲間との交流 ・内容・例やその順序についての理由の問いかけ
「知識・技能」ｉ	ノート	・調べた内容を、「調理や加工の仕方」「作られる食品」などの観点から適切に表に分類している。	・マッピング手法などの図による整理法の提示
「思考・判断・表現」ｉ	完成した作文 学習のまとめ	・「はじめ」「中」「終わり」の構成で、「中」の部分を内容ごとに段落で分け、順序に意図をもって作文を書いている。	・書こうとしている内容や例についてのイメージを問いかけ、読み手の感じ方に気付かせる。

※　こうした状況を見取るために、ノートへ記述内容や記述の仕方、ワークシートなどの学習形態を工夫する必要がある。例えば本単元の〔主体的に学習に取り組む態度〕の評価であれば、児童が作文の組立てについて「複数の案」を検討し、それぞれの効果をどのように考えたうえで下書きの案を決めたか、その過程が表れるようなワークシートを作成するなどの工夫が考えられる。

⑤　観点ごとに評価を総括する

適切な評価の下に得た、児童生徒の観点別学習状況の評価に係る記録の総括の時期としては、単元（題材）末、学期末、学年末等の節目が考えられるが、総括の時期や方法には様々な考え方があり、各学校において工夫することが求められる。

ここでは、単元で総括する場合を例として示す。

「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の評価の中で記録に残すものについては、単元の評価規準に基づき、「③指導と評価の計画を作成する」に示した時間や学習活動のまとまりごとに、その実現状況をみていく。その上で、時間や学習活動のまとまりごとに行った評価結果を総括する。本単元であれば、「知識・技能」及び「主体的に学習に取り組む態度」については、単元内の評価の記録は一つであるため、それがそのまま単元の観点別評価となる。

「思考・判断・表現」については二つの評価規準で三つの記録があるため、三つを総括した評価を単元の観点別評価とする。このとき、例えば観点ｉが「A」と「B」、ⅱが「B」などのように評価が揃わない場合もあるが、単元の重点指導事項や評価のタイミング（単元の前段、後段）等を踏まえて、適切な根拠をもって総括する必要がある。

＜参考資料＞
「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料(小学校，中学校)」（国立教育政策研究所）